

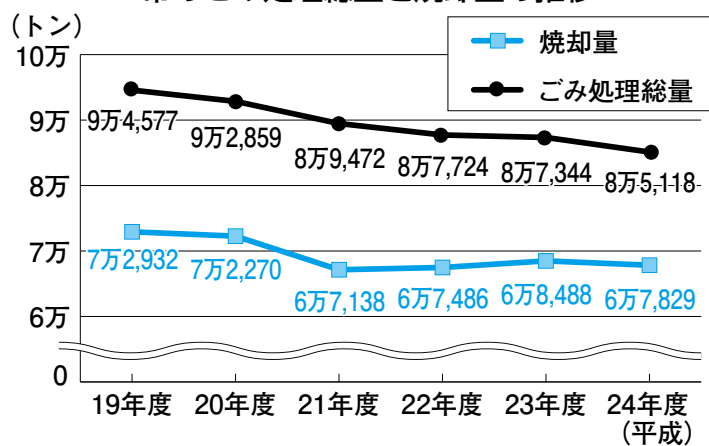
目標1人1日77グラム **減** 可燃ごみ減量を目指して！

市は、「フジスマートプラン21(富士市ごみ処理基本計画)」に沿ってごみの減量・資源化を進めています。

しかし、市のごみ焼却量は、近年ほぼ横ばいで推移していて、可燃ごみが減少していないのが現状です。

そこで、今回は可燃ごみの減量方法について紹介します。

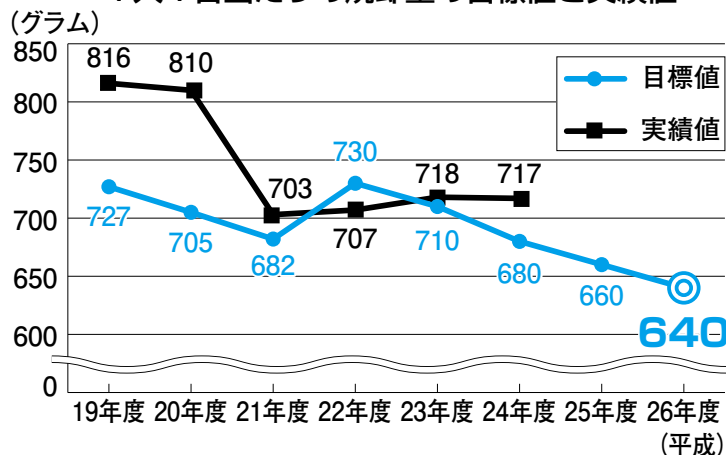
市のごみ処理総量と焼却量の推移



■市の可燃ごみ焼却量の推移
市は、ごみ減量のためのさまざまな取り組みを進めていて、市のごみ処理総量は年々減少しています。
しかし、ごみの焼却量(可燃ごみ)は、近年横ばいで推移していて、減少につながっていない状況です(左グラフ参照)。
また、昨年度市民1人1日当たりのごみの焼却量は717グラムで、目標値の680グラムを下回ることができませんでした(下グラフ参照)。
平成26年度の目標値の640グラム達成に向けて、さらなる減量の取り組みが必要です。

減らない可燃ごみの焼却量

1人1日当たりの焼却量の目標値と実績値



可燃ごみ減量の目標
平成24年度市民1人1日当たりの可燃ごみ排出量の実績
現状 / 717グラム
目標 / 640グラム
★1人1日77グラムの減量

ごみの種類	古紙	プラスチック容器	布類
平成21年度	4・9%	1・7%	3・5%
平成24年度	7・5%	3・6%	8・8%

■可燃ごみの中に多くの混入物
可燃ごみが減らない理由は、可燃ごみの中に、再生できる古紙、プラスチック製容器包装、布類が多く混入している、その混入率が増加していることが挙げられます。

市は、常葉大学と協働で家庭ごみの組成分析調査を実施しています。

その結果、昨年度は可燃ごみの中に約7500トンの分別ごみが混入されていることがわかりました。

【資源物の混入率】

可燃ごみの減量が進まないと、ごみ
を処理しきれなくなってしまう。



現在の環境クリーンセンター

②有料化によって得られた収入は、ごみ処理やリサイクルの推進など、環境にやさしいまちづくりのために使うことができます。



では、どのようにすれば可燃ごみが減量できるか、一緒に考えていきましよう！

生ごみ			布類		紙その他の					プラスチック製容器包装			種類
キャベツの葉	緑茶の殻(4杯分)	バナナの皮 (Sサイズ1本)	スニーカー (左右1組)	Tシャツ	靴下(左右1組)	A4コピー用紙 1枚	ダイレクトメール (長3封筒入り)	チヨコレートなどの箱	ティッシュペーパーの空箱	プリンなどの容器	スナック菓子の袋	コンビニ弁当容器	品目
60	35	40	700	150	70	4	40	10	35	14	8	30	重量 (グラム)

2025

★77グラムの減量つて

